



危険! 食品による 窒息事故



©Kurosaki Gen

事例 1

薄くスライスしたリンゴを自分で持たせ、食べさせていたところ、えずいて顔が真っ赤になった。苦しそうな様子が続き、嘔吐した。(当事者:0歳10カ月 男児)

事例 2

あめ玉の形をしたチーズを食べさせたところ、のどに詰まらせた。すぐに吐き出したので大事には至らなかったが、危険だと思う。(当事者:3歳)

ひとことアドバイス

- 乳幼児は食品をかみ砕く力、飲み込む機能が未発達です。
- 窒息事故を防止するため、食べ物は小さく切ったり、形態を変えたりした上で、よくかんで食べさせましょう。
- 寝転んだ姿勢や、口に入れた状態での遊びやおしゃべりは危険です。正しい姿勢で座らせ、食べることに集中させましょう。
- 日本小児科学会のホームページなどを参考に、窒息事故の要因と対策を正しく理解することも大切です。

公益社団法人日本小児科学会

「～食品による窒息 子どもを守るためにできること～」

https://www.jpeds.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=123

さぼーとくん

